

成人した今、幼子のことを棄てた。¹²わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔を合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。¹³それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

【講師からのメッセージ】

愛はキリスト教の重要なテーマ。本学の建学の精神にも「三愛主義」と「健士健民」が掲げられています。本学に学ばれる皆さんにとって、土台となる大切なテーマです。若い皆さんにとって愛とはどういうものですか？純粋で、魅力的で、美しくて、まさに青春の象徴のようなものですか？ドラマや小説で描かれるものに惹かれたり、憧れたり、逆に複雑さに戸惑ったり、不確実で傷つくかもしれない怖さを感じて、慎重に受け止めている人もいるでしょうか。でも、それらの愛は、もしかすると人間同士の愛のことではありませんか。聖書は愛について、そこに神の深いかかわりを語ります。私たちの人生と神の愛の真理とについて、聖書を通して迫ってみませんか。

【講師プロフィール（自己紹介）】久保木 崇（くぼき・たかし）先生

とわの森三愛高等学校宗教主任の久保木崇です。54歳、酪農学園での勤続年数は33年となりました。妻と大学生の娘1人の3人家族。元々は高等学校の公民科の教員でしたが、様々な現場を経験させていただいた上に、50歳にして聖書と神学を大学で改めて学ぶ機会を頂いて、今年から高校宗教主任の働きをさせて頂いています。高校では毎週1回、全校生徒での礼拝を行っています。高大合同礼拝なんて夢の企画、実現したらうれしいですね。

【オルガン演奏会（コンサート）の報告】2025年10月21日（火）

先週はオルガンの披露を兼ねた礼拝（大学礼拝）とオルガン演奏会（コンサート）を行いました。寄贈者の酒井薫さんにお礼申し上げます。また、演奏会の出演者（演奏者）と出席者のみなさんに感謝申し上げます。

【次回の大学礼拝】2025年11月4日（火）10時40分

聖書：ヨハネによる福音書 5 章 13-13 節

奨励：「力の否定——政治的にも宗教的にも」小林昭博（宗教主任）

【前回の大学礼拝（礼拝後：オルガン演奏会）】2025年10月21日（火）

学生：41 名 教職員 34 ほか：名 合計：75 名

【大学礼拝週報】2025年度 第21号（後学期第6号）

2025年10月28日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

2025年度秋期キリスト教教育強調週間

《礼拝順序》

司 式 小林昭博（宗教主任）

奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）

讃美指導 相原晴伴（循環農学類教授）

前 奏	ただみ神にのみゆだねまつる者は（J.S.バッハ作曲）
讃美歌	讃美歌第 453 番（きけや愛の言葉を）
祈 り	
聖 書	コリントの信徒への手紙一 13 章 4-13 節
さんび	酪農学園大学聖歌隊
奨 励	「最も大いなるもの、愛——信仰と、希望と、愛、 そのすべてはあなたへの神からの賜物」
祈 り	久保木 崇（とわの森三愛高校宗教主任）
讃美歌	讃美歌 2 1 88（心に愛を）
報 告	
後 奏	永遠なる朝の輝き（バイエル作曲）

【本日の聖書】コリントの信徒への手紙一 13 章 4 節～13 節

⁴ 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。⁵ 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。⁶ 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。⁷ すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。⁸ 愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、⁹ わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。¹⁰ 完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。¹¹ 幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。